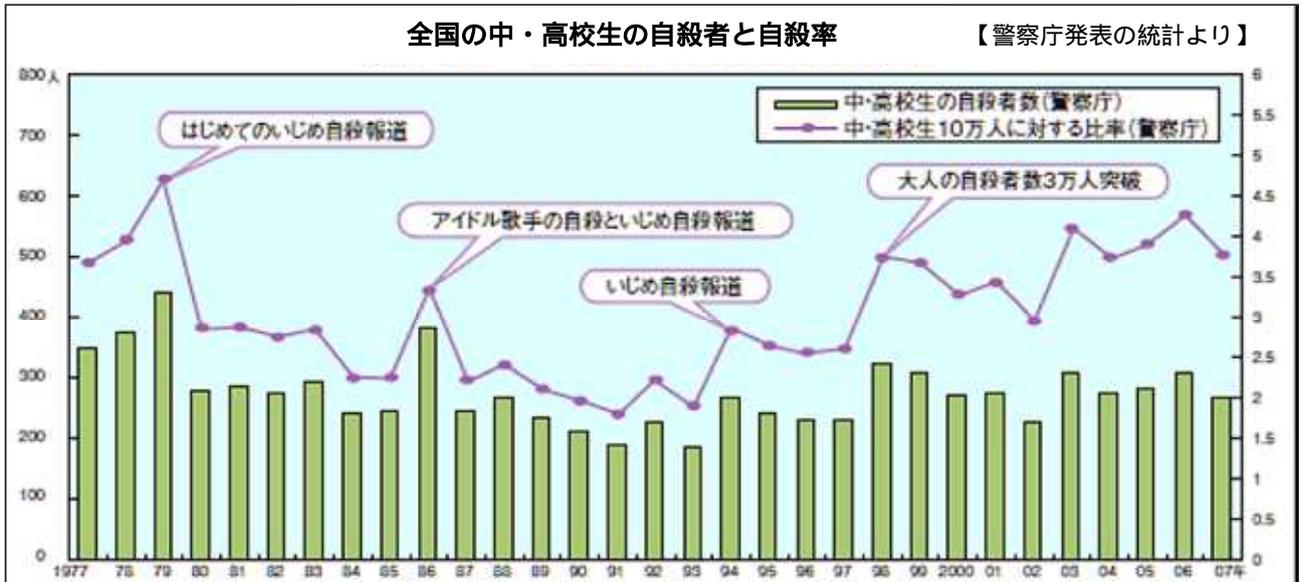


9月は自殺予防月間です

岩手県では、9月を自殺予防月間として、県内各地で取り組みを行っています。

全国的にみると、「死にたい」と訴えたり、リストカットなどのように自らの身体を傷つけたりする子どもたちは、特殊なケースとして片付けることのできないほど高い数値を示しています。中学・高校教師の5人に1人は生徒の自殺に、3人に1人は自殺未遂に遭遇したことがあるという全国調査の結果もあります。



文部科学省(平成21年3月)作成の「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」には、「自殺のサインと対応」「自殺防止のための校内体制」「不幸にして自殺が起きてしまったときの対応」「自殺の危険の高い子どもへの対応事例」など、具体的な資料が掲載されています。HPからも見るができます。

自殺の危険が高まった子どもへの対応 TALKの原則

- Tell: 言葉に出して心配していることを伝える。
- Ask: 「死にたい」という気持ちについて、率直に尋ねる。
- Listen: 絶望的な気持ちを傾聴する。
- Keep safe: 安全を確保する。

『寝た子を起こす?』～自殺予防の視点～

自殺について話を聴くことが、かえって自殺を促してしまうのでは!?という、いわゆる「寝た子を起こすのでは」といった不安や心配はよく言われることです。しかしながら、これまでの多くの調査や研究結果からは、「死にたい」という気持ちをきちんと聴くことが、自殺予防に効果があったという結果が示されています。一般的に、リストカットなどの自傷行為を行う若者は、他者に援助を求めることが苦手とされています。自傷行為などの自殺関連行動を、「死にたいほどつらい」という言葉にできないメッセージとして受け止め、周囲の大人がきちんと話を聴いていくという姿勢を見せていくことが大切です。(精神保健福祉センター主任心理判定員 大向幸男)

不適応対策に係る情報を発信していきます。不適応対策指導の参考に活用していただければ幸いです。

岩手県教育委員会事務局学校教育室生徒指導担当 (019-629-6145)

<http://www.pref.iwate.jp/list.rbz?nd=1813&ik=3&pnp=86&pnp=1779&pnp=1813>